

2021.8.19 (木)
第 6 回例会
(通算3633回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイ RC)

月間テーマ

会員増強・新クラブ結成推進月間

本日のプログラム

講師例会「JALの地域での取り組みについて」(担当:プログラム委員会)

次週例会

講師例会「k-Biz 開設3周年 実績とサポート事例」(担当:プログラム委員会)

- ロータリーソング:「四つのテスト」 ■ ソングリーダー:杉浦 裕之君
- 会員数 99名
- ビジター なし
- ゲスト 日本航空(株) 地域事業本部 北海道地区ふるさとアンバサダー 小林 千秋様

会長の時間

杉村 莊平会長



皆さん、こんにちは。お食事の方はお続けください。初めて少し余裕のある、ゆっくり感のある会長挨拶の時間をいただき

きまして、ゆっくり話そうかなと思っております。まずは、例会プログラムの件、ご報告させていただきます。先々週、話したばかりで大変恐縮でございますが、来週に予定しておりました夜例会を苦渋の選択ですが9月16日に夜例会再開を延期させていただきたいと思っております。この件について様々な意見があるかと思えます。最悪、理事会でいろいろ意見を交換しながら判断させていただきたいと思っております。何卒、ご信頼・ご理解いただきながら判断をお待ちいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は少しお時間もありますし、せっかくの会長の時間でございますので今日は地域に関するお話が続いておりますので、会長特権で自己紹介を兼ねながら古き良き釧路の時代を少しお話ししたいなと思っております。

私は1965年、昭和40年に弥生町1丁目に生まれま

した杉村でございます。ひぶな幼稚園、東栄小学校、東中学校、湖陵高校と根っからの橋南地区育ちです。小中高とも木造のいわゆるルンペンストーブの校舎で、冬には窓の隙間から雪が積もるような学校です。小中高とも水洗トイレというのが見たことがなく、いわゆるポットトイレというのでずっと育てている下品な会長です。

われわれ昭和40年(1965年)組なのですが、メンバーはたくさんいます。小学校時代はピンクレディーとキャンディーズ。中学校・高校は金八先生・校内暴力・横浜銀蠅。大学時代はオールナイターズ・おニャン子クラブ。そのままバブリーに突入してジュリアナ東京。就職してみてもアツという間にバブル崩壊というような、まさに時代の先頭走って、その当時は『新人類』と言われた輝かしい世代でございます。

昨今では、大量採用の使えない『バブル世代』と言われているとか、言われていないとか、聞いたことがあります。

そんな小学校の思い出をひとつ言うと、弥生町1丁目のすぐ近く、弥生中学校の下にむかし中村水産という大きい水産工場がありました。僕の家の前を、魚を満載した大きなトラックが通るのです。この当時、買っていたサバですけども、急カーブになればザザッとサバを落として行くのです。杉村少年は母親に褒められたい一心で、その落ちていたサバから一番いいサバ

を選びすぐって、「母ちゃん、これ持ってきたよ」とやるのですが、「そんなサバ、持って来るんじゃない」と怒られ大変傷ついた少年時代を過ごしております。それくらい魚が本当に大量に獲れていた、余っていた時代なのかなと思っております。

その当時、弥生町界限は、朝6時くらいになるとイカの行商の方がラッパを吹きながら来たり、夕方になるとリヤカーで野菜売りのおばさんが来たりして、非常に活気がありました。ただ、弥生町1丁目といっても、同じ弥生町でも東栄小学校から米町にかけては高級住宅街が展開するわけです。そこには浅川さんのご実家や小船井さんのご実家があるわけです。僕の弥生町は、貧富の差が非常に激しくありまして、長屋がずらっと続いていて、皆さんは鍵をかける習慣もなく、勝手に人の家に上がり込んで生活していたというような環境でした。

もうひとつ、この当時、東栄小学校のライバル校は隣にあった日進小学校でした。日進小学校もすぐ近くなのですが、大きなお宅とか公務員住宅がありまして、東栄小学校とはかなりランクの差があったのです。その日進小学校の50年前ですが、なんと屋内プールがありました。実は東栄小学校の人間は夏になるとプールを借りに日進小学校に行くわけです。日進小学校に行きますと、2階・3階から日進小学校の生徒が東栄小学校の生徒に今ではもう言えない、放送コードに引かかる罵詈雑言を浴びせてくるわけです。今の言葉で言えば「お金のなさそうな東栄小学校の生徒さん、君たちはここに来る生徒じゃありませんよ」みたいなことを罵詈雑言で罵ってくるわけです。そんなことを経験して社会の格差はすごいものだなと大変勉強になりました。ちなみに当時、その日進小学校には栗林君と羽田野君がいらっしゃいました。その窓から顔を出していたかどうか知りませんが、そんな時代を過ごしました。

この自己肯定感満載のアバウトの性格の杉村はこんな少年時代から来たのかなと。親に恵まれたのか、地域に恵まれたのか、時代に恵まれたのか分かりませんが、非常に良い少年時代を過ごさせていただけましたという『ワンス・アポン・ア・タイム (once upon a time) in 弥生町』で自己紹介でございます。ご清聴ありがとうございます。

長々とお話しましたが、本日の小林さんは同世代でございます。誕生日が出ていますのでお話させていただきます。日本航空では『地域ふるさとアンバサダー』という制度作りまして日本各地で素晴らし地域貢献をしていただいております。今日はゆっくりと時間がありますのでお話を拝聴したいと思います。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

幹事報告 市橋夢佳丞幹事

皆さん、こんにちは。幹事報告をさせていただきます。

他クラブの例会につきましては、お手元の資料をご一読いただければと思っております。先日もお話をさせていただきましてけれども、本年度メイクアップの推進に取り組んで

いく試みのもと、皆さまのテーブルにあります出席表にご自分の出席のところに丸を付けることお忘れにならないようにしていただければと思っております。

また、出席表の下段に「メイクアップ確認表」という欄がございます。記載もありますけれども、8月1日に行われました全道中学親善硬式野球大会もメイクアップ対象となっております。今後、メイクアップ対応の事業につきましては事務局からのご案内の際に必ずその旨一文を記載させていただきますので、担当の方で出席者は押さえておりますが、メイクアップ確認表にご自分でお名前をお書きいただく習慣をつけていただければと思っております。

現状、コロナ禍でメイクアップの反映がその年度内1回のみ有効となっております。ぜひ、有効にご活用いただければと思っております。

また、先ほど会長のご挨拶にありました8月第4例会の例会プログラムが夜例会から昼例会に変更となりました。来週ですが、12時半からお昼の例会となっております。皆さま方、お忘れのなきようお願いを申し上げます。

また、皆さま方のメールボックスに入れさせていただいた資料がございます。本年度、会員増強に大変取り組んでいるところで、この増強のパンフレットを表裏1枚の用紙で作らせていただきました。ぜひ、皆さまこちらをご活用いただきまして身の回りの方、お知り合いに会員増強の取り組みをしていただければと思っております。

こちらは印刷して置いてあります。データでもお渡しすること可能ですので、データが必要な方は私までご一報いただければと思っております。

以上で、幹事報告とさせていただきます。ありがとうございました。

■本日のプログラム■ JALの地域での取り組みについて

プログラム委員会 木下 正明 会員

皆さん、こんにちは。プログラム委員会の平会員の木下です。平会員なのに何回もご紹介いただくのも心苦しいのですが、本日の講師のご紹介をさせていただきたいと思っております。

本日、ご講演いただきます小林千秋様は日本航空に入社後、国際線の客室乗務員を長年務められ、教官や管理職といった指導的な立場をお務めになっておりま

す。先ほど杉村会長からありました『ふるさとアンバサダー』として本年4月に釧路にご着任いただきました。積極的にご活動いただきまして、小船井会長がおりますけども、釧路ばかりではなくひがし北海道のブランド化のためにご尽力を賜っているところでございます。

本日はJALの地域での取り組みについてということでご講話をいただきたいと思っております。

小林様、どうぞよろしく願いいたします。

日本航空株式会社・地域事業本部支援推進部地域アンバサダー室・北海道地区ふるさとアンバサダー先任キャビンアテンダント 小林 千秋様



皆さま、こんにちは。ただいま、ご紹介いただきました日本航空の小林と申します。このようなお昼の皆さまの大切な貴重なお時間を頂戴しまして、お話をさせていただけるという事を木下さんからお声がけいただきまして、本当に嬉しく思っております。お時間は25分ほど伺っておりますので、手短にお話させていただきつつ、私が今なぜここに居りますのかといった事をご理解頂戴できれば嬉しいなと思っております。

本日、お話をさせていただく内容としましては、大きく3つに分けてお話させていただこうと思っておりますが、私は話が行ったり来たりしてしまうので、分かりにくい点などございましたらどうぞご容赦くださいませ。

さて、私の略歴は木下様からご紹介いただきました通りですが、先ほど杉村会長が懐かしいお話をされておりました。全部「うん、そうそう」と私は頷いておりました。まさに、私も昭和40年(1965年)生まれ、新人類世代でございます。

余談になりますが、私ども客室乗務員、私が入社の際はスチュワーデスと呼ばれておりましたが、創業当時の続き番号でスチュワーデス1期、2期、3期と『期』というものが存在しておりました。今はもうなくなってしまいましたが、この『期』というのは、よく同じ入社時期の仲間を「同期」と呼ばれると思っておりますが、それより比較的幅が狭く、同じ入社時期でも、一緒のクラスで訓練を受けたクラスメイトのような感じでした。私はたまたま「昭和62年6月入社」の600期というクラスでした。キリのいい期、100期・200期・300期・400期・500期、そして600期ということで少し話題にもしていただきました。100期、200期台の大先輩は私が入社の際にはもう現役の方はあまりいらっしやらない伝説の方々が多く、その後はその

頃の社会状況などを反映して「向こう横丁の300期」だったかな、「体力の400期」などキャッチフレーズがつくのですが、100期先輩の500期は美人が多くて『花の500期』と呼ばれていました。自分たちのクラスが「600期」だと分かった私たちは訓練が始まると教官に「私たちは何の600期ですか？」とワクワクして尋ねたら、「お前達はただの600期だ。花の500期の次はただの600期！」と言われたことを覚えています。でもその後で朝日新聞さんに「新人類600期が登場」と書かれていました。(笑)

いま思えば私が数年前まで現場で一緒に働いておりました若手CAの方々の方がよっぽど新人類だと私は思っているのですけれども、まあ、いつの時代にも新人類は巡ってくるということですね。

職歴は先ほど木下様からご紹介いただきましたが、私が地域でのお仕事をさせていただききっかけとなりましたのは、2016年です。以前から支店を中心に地域での活動、社会貢献、地域貢献の活動はずっと行っておりました。本社でもCSR活動を取りまとめる部署なども当然ありますが、支店以外に初めて地域活性化に特化した部署を地域に置くということで、2016年に東北にオフィスを作りました。その時に初めて客室乗務員の本部を出て外の部署に、その東北の部署の創立メンバーとして参加いたしました。その時から早5年、私自身としましてはその頃から地域の皆さまと一緒に仕事をやる業務に携わっております。

まさに「ターニングポイントは5年前」ということで、地域と一緒に何か業務をするきっかけが始まったのが、この東北事務所の立ち上げでした。

2010年に経営破綻をし、社会の皆さまには大変ご迷惑をおかけした時期と重なって2011年3月東北で東日本大震災が起きました。その頃、私どもがやりたいと思っていた支援のお手伝いも十分にできなかった想いもありまして、まず地域での活動をどこにするかということで東北にオフィスを構えました。それが5年前です。今でもこのセクションは部署名こそ変わりましたが稼働し続けております。

では私個人として、そこで何をしていたのかと申しますと、ここに書いてございますが、東北観光推進機構という外部団体に兼務で出向し、他の企業から出向の方、東北全県、仙台市など行政から来ているメンバーと共に、観光で東北を盛り上げる仕事・業務に就いておりました。

これらはたまたま日本航空の一員という立ち位置で地域でのお仕事をしている写真を選ばせていただきましたが、ほぼ制服を脱いだ仕事をしておりました。

そもそも、私は客室乗務員として入社しましたし、客室乗務員として長い間飛行機の機内で仕事をしておりました。2016年に初めて機内から外の世界に出て、非常にやりがいを感じました。飛行機の中の仕事は、

私は今でも好きですしとてもやりがいもあります。いろいろな出会いもありますが、基本的には一期一会のお仕事です。ですが、地域でお仕事するとすると、その地域の方々と長く関係を持って仕事ができる、それが非常に魅力だなと思っております。

具体的にどのような事をしていたのかと申しますと、これらの写真はほんの一例ですが、学校や観光等に



関係する企業様等にお声掛けいただき、主に接客のお話をさせていただきました。こちらは、子供たちの職業体験のイベント

があり、その中に日本航空も出展させていただきました。これすごく可愛かったのですが、子供たちが機内サービスの体験をするのです。パイプ椅子をお客様の座席に見立てて、台所で使っているワゴンを機内のワゴンに見立て、ジュースサービスしてもらったり、「笑顔でお客様にご挨拶しましょう」みたいな話を体験イベントをやってみました。こちらは、宮城県と日本航空との共同記者会見のときの司会の様子です。これは東北観光推進機構の中で、観光人材育成の取り組みの「フェニックス塾」の担当者をしておりました時の修了式です。このようなことを地域で行い、飛行機の中から出て地域での仕事の魅力に惹かれていった3年間でした。

さて、私個人のお話から、日本航空として地域の活動・地域活性化推進の活動、そもそも東北を皮切りにどんどん広げて行こうとなったのですが、どのような考えのもとに行っているのかをお話をさせていただきたいと思います。

JAL・日本航空の事業は、そもそもお客様・人を運ぶ、物を運ぶ、航空輸送業です。人・物をお運びする、運航をするということはA地点からB地点への移動・輸送手段として、地域と地域を繋ぐという意味がございます。

2016年東北での部署立ち上げのきっかけは、そろそろ体力的にも社会への恩返し、感謝を事業で恩返しできるタイミングであり、それはやるべきである、やりたい、という気持ちで地域での仕事をJALが取り組み始めました。その取り組みには、社会にかけたご迷惑の恩返しという意味ももちろん大きくあります。同時に、物をお運びする、人をお運びするために、まずは日本の国内に着目してのケースですが、国内線事業の維持・発展、路線をキープする、路線を増やす事ももちろん裏にはございます。路線がなくなってしまうと人も物もお運びすることはできません。路線をなくさないためには人の交流・人流、それから物の流れ・商流がもっともっと活発になることが必要になってま

いります。そのお手伝いをできないだろうか。

そして、日本の地域には地域の素晴らしい物、資源がたくさんある。その資源を次の世代に残していきたい。これも地域貢献の考え方のひとつかもしれませんが、素晴らしい日本を次世代に残していきたい。その素晴らしい資産・財産は日本の地方と呼ばれる地域にたくさん眠っている。現代の日本の抱える課題でもある少子高齢化、都市への一点集中、これらの解決のためにもいろいろな地域にも発展してほしい。そういう願いのもとに日本航空は地域活性化の推進事業に取り組んでおります。

どういうことを具体的にしているのかといいますと、人の流れ、交流人口の拡大、それから物の流れ、物流の活性化といったところと、一部には国策・地域の政策の支援もございます。北海道でいうと『ウポポイ』には日本航空も支援・協力もしております。先月末には、奄美が世界自然遺産に、縄文遺跡群が世界文化遺産の登録になりました。本当に嬉しいなと思います。そちらも応援・支援しておりました。そういったことを目的にいろいろな素晴らしいものを見つけて磨く、そして育てる、それを流通に乗せる、六次産業化につなげる、プロモーションをする、そういったそれぞれのことをしております。

その一環として、2016年に立ち上げた東北の部署のお話をしたのですが、それ以前にも各地の支店を中心にいろいろと取り組みをしておりました。国内における取り組みとしては、2011年から『JAPAN PROJECT』という名前で、毎月ある地域をテーマにしてその魅力を発信するプロモーションをしております。機内誌に特集記事を載せること、国内線ファーストクラスの夕食メニューを地域とコラボレーションをする、Webを使ったプロモーションで旅行商品キャンペーンを組むなど、今でもこれは続けておりますが、それを始めたのが2011年です。

北海道はかなり頻繁に特集させていただいております。7月末に記者発表をして、今まさに取り組み真っ最中の8月は『十勝』を特集させていただいております。来月はまた違う県になるのです。まだプレスリリースをしていないので、ここで大きくは言えないのですが、皆さまにもちょっとお楽しみにしていただきたいエリアが何か月後にやってまいりますので言えるタイミングになりましたら、ぜひ告知させていただきます。そして、このJAPAN PROJECTが途中、『新JAPAN PROJECT』に変わり、少し取り組みに厚みを出しました。

2016年の東北部署立ち上げ、2011年から今に続く地域プロモーションをはじめとした地域活性化に資する活動、そういったものをすべて包括する本部として、昨年2020年11月に『地域事業本部』として正式に社内には本部組織が出来ました。地域事業本部として、

今までのプロジェクトに更に厚みを加え、今年から『JAL ふるさとプロジェクト』として取り組んでおります。

地域プロモーション以外には、このニューノーマル対応、これはまさにワーケーションですとか、アニメツーリズムですとか、いろいろな新しい形の生活様式や新しい旅の形に対応する応援・協力しております。これは実は私が行っているプロジェクトの写真なのですが、地域密着の活動としてパートナーを「青森県の白神山地」に取り組んでおります。この地域にもっと人が来るような何かをやりたいというプロジェクトを、JALグループの中で公募して、「地域活性化活動をやりたい」と自ら手を挙げたグループ会社社員が集って実施しています。この人たちは地域活性化推進部の部員ではなく、客室のCAや空港のグランドスタッフ、JALカードの社員であったり、営業の社員や貨物本部の社員といった色々なセクションの人が混ざって一緒に取り組んでいます。現在コロナでプロジェクトが停滞中なのですが、学生を取り込んで何かやろうと計画しております。

ふるさとプロジェクトは、他に地域産品の支援、観光振興もやっております。これは香川県、実はフルーツがとても有名、美味しいフルーツがある所ですけどなかなか有名にならないので「何かできないか」というものです。香川県のキウイフルーツだったのですが、東京のメゾンカイザーというパン屋さんとマッチングさせて販売をしました。そんな取り組みもしております。

そして、だんだん今の私の立ち位置に近づいてきますが、現在のコロナの影響でフライトの機会が少なくなっている乗務員がたくさんおります。その点も『ふるさとアンバサダー』という取り組みができたきっかけにもなったのですが、その乗務員たちは自分たちが応援したいエリア、応援したい地域があります。その応援をYouTubeで流すチャンネルもできております。よろしければ後ほどYouTubeで検索してみてください。JAL・ふるさと・応援みたいなキーワードで出てくると思います。乗務員だけではなくてその地域の空港のスタッフやいろいろなメンバーが出てきてその地域を応援しております。ちなみに北海道の番組は、私は釧路在住のアンバサダーですが、一足先に札幌に3名が着任しております、その札幌のメンバーの馬場ちゃんという可愛い子が出ておりますのぜひご覧ください。

コロナ禍の中での取り組みとして、番外編になりますが、このパイロットという職種も実はフライトの機会がなくて、職場が失われている部署のひとつなのですが、このパイロットが昨年、「地域貢献としてこういうことをやりたい」と会社に伝え、そしてそれが実現しました。

ちょっとクイズ形式なのですが、伺ってみてもよろしいでしょうか。3択です。1番・出身地での航空教室を開催した。2番・農家で収穫作業を手伝った。3番・チャリティーコーラスの動画を配信した。どれだと思いますか？この2名が声をかけて仲間を集めてやったことです

1番だと思っ方、手を上げてみていただけますか？ありがとうございます。2番だと思っ方いらっしやいますか？結構いらっしやいますね、ありがとうございます。3番だと思っ方いらっしやいますか？ありがとうございます。2番が多くて、3番がその次という感じですよ

ね。答えは2番でした。「『りんごたすけ隊』ということでパイロットたちが青森に行き、リンゴの収穫作業を手伝った」とニュースにも取り上げていただいたので、ご存知の方もいらっしやるかもしれませんね。実は先ほど出ていました航空教室とコーラスもやっていますので、3問とも正解とも言えますが。

私がびっくりしたのは、こういったことを考える者、「やりたいな」とか「やるべきだ」と考える者は沢山いるのですが、なかなかそれを実現するのが難しい。タイミングもあつたのかもしれないのですが、この者たちが「こういうことをやりたい」と、部長なり本部長なりに声を上げました。「いいじゃないか」ということでスピーディーに話がまとまり、周囲の協力も得てスピーディーに実行に移せた。いま、「JAL OODA (ジャル ウーダ) が大切です」という考え方が弊社の中で常々出てくるのですが、まさにその『JAL OODA』の考え方で、自らが自分たちで考えて、自分たちでできることをスピーディーにPDCAを回していく。人から言われるのを待つ、業務指示を待つのではなく、それをまさに体現した出来事です。という事例だったもので、少し力を込めてご紹介させていただきました。

さて、もうお時間も少ないのですが、では最後に北海道で何をしているのかを少しお話させてください。

私は、地域事業本部の『ふるさとアンバサダー』という肩書で釧路に着任し、ひがし北海道を中心に活動させていただいております。同時期に「ふるさと応援隊」という客室乗務員も東京をベースにして約1,000名おります。先ほど応援チャンネルでYouTubeに出演している者は、ほぼ応援隊のメンバーです。彼らは、自分が応援したい所縁のある地域、出身地であったり、学生時代住んでいたとか、理由はそれぞれですが自分はここを応援したいというCA達が、私は「釧路の応



援隊」です、「女満別の応援隊」です、「島根の応援隊」ですと言う風に全国各地の応援隊として存在しています。

ちなみ釧路は最初 10 名いたのですが、今は少し人数が減りました。様々な理由で登録が減ってしまいましたが、その内の 1 人はひがし北海道地区のアンバサダーとして先日釧路に着任しております。彼女は元応援隊です。

応援隊は東京にいて応援する地域のイベント等、活動がある時に東京から出張してまいります。しかし、ふるとアンバサダーはその地域に移り住み、その地域の方と一緒に何かの事業を取り組んでいけないだろうか、地域がもっと元気になる取り組みと一緒に種を探して一緒に育てていきたい、そういう活動をその地域でやっております。



すみません、この情報が古いのですが、現在は 10 か所で 19 名まで増えました。当初、社長が「20 名まで増やしたい」と

言っていたので、そろそろ規模的にはこれぐらいなのかなと思います。全国、各地に配置ができないにしても、私としてはもう少し規模を増やしてもいいのではないかなと思っております。こういった活動をしております。

では、具体的に北海道で何をしているのかをご紹介します。先発隊 3 名が札幌に着任しております。私が釧路に着任する前までは、この道東地域も札幌から出張して来ておりました。

これは『オホーツク流水ライド』というアドベンチャーツーリズムの PR 動画を作るお手伝いをしました。このファットバイク、私は北海道に来るまで存じ上げませんでしたが、こういった「アウトドアの自転車は氷の上も雪道でも、ぐんぐん行ける」んですね。という事でアドベンチャーツーリズムの PR、「冬の北海道も楽しいこといっぱいあるよ、冬の北海道も来てね」という PR 動画の撮影協力をしました。こちらは支笏湖のヒメマス・チップの PR 販売を埼玉県浦和の伊勢丹で行ったもの。こちら、現在進行中なのですけれども「ハマナスを使った化粧品の商品開発をやりたい」と札幌地域のアンバサダーが頑張っております。こちらは J R 北海道さんと J A L パック、J T B さん、日本航空とで企画をしている『HOKKAIDO LOVE ! ひとめぐり号』という周遊の列車の旅。こちらは 10 月に実施させていただくのですが、その企画などもアンバサダーが入ってやっております。私も乗車する予定です。機内サービスならぬ車内サービスをする予定となっております。

そして、私は着任後すぐに緊急事態宣言、まん延防止等重点措置がありましたので、いろいろな所にお邪魔することが出来ず少しスロースタートになってしまいましたが、阿寒湖での『湖水開き』とか、『KAMUY LUMINA(カムイルミナ)』のイベントのお手伝い、それから行政さんでは浜中町で接客マナーのお話ですとか、先日は北見のカーリングチームの選手の皆さんの勉強会に参加させていただきました。こちらは 9 月 8 日に釧路商工会議所さんの接客セミナーを担当させていただきましたので、皆さまの会社の新入社員の方ですとか、接客フロントラインに立たれる方でご興味のある方はぜひ商工会議所にお問い合わせいただければと思います。あと、木下さんからのお話にもございました「ひがし北海道ブランド化推進協議会」の皆さまと一緒に何かいいことができないかなと企画している最中でございます。

このような形で地域の皆さまと共にお仕事をしていきたいと願っております。まだまだ始まったばかりの取り組みですし、私自身も着任してまだ間もないので、いろいろなこと勉強しながら、一緒に行っていきたいなと思っております。

皆さまのお手元にパンフレットをご用意したのですが、それは簡単なご紹介です。アンバサダーが実施できるもの、それから本社に持ち帰ってその専門セクションで実施するもの、様々な事業の取り組みがございます。もっと分厚いパンフレットもあるのですが、こちらはご紹介ということで、ご興味がございましたら私、または釧路支店にお声がけをよろしく願いたします。ちょっと最後は宣伝になってしまいましたが、このような活動をしてみたいと思っておりますので、どうぞ皆さまよろしく願いたします。拙い話で恐縮でしたが、ご静聴いただきありがとうございました。

会長謝辞 杉村 莊平会長

小林さん、本当に今日はお忙しいところありがとうございました。大変貴重なお話を聞かせていただきました。特に小林さんが話した中で「まず動いてみるんだ。動いてみて P D C A を回すんだ」というお話もありました。まさにそのとおりだと思っております。私も「この地域があつてのロータリーだ」と思っておりますので、『地域を育む』ということで今年テーマにしてやらさせていただいております。釧路地域も日本製紙の件もあり暗いニュースがあつたりするわけですが、まさに J A L さんの取り組みとしっかり連携しながら行っていかなければならないだろうと思っております。

J A L さんも民間企業ですから、地域に魅力がなくなれば便もなくなってしまうということでございますので、J A L さんに見捨てられないようにわれわれも

しっかり地域を磨きながら、しっかりと連携を組んで
行っていきたくと改めて思います。よろしくお願
いいたします。

それでは、これから釧路も寒くなってきますのでお
体に十分気を付けていただきながら、地域とのパイ
プをどんどん太くしていただければと思います。今
日はどうもありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■邵 龍珍君 先日 16 日の当店ぎゅう太が開店 21 年目に突入しました。
今後ともよろしくお願いいたします。

今年度累計 77,000 円